



\*\*\*\*\* ご案内 \*\*\*\*\*

センシング技術応用研究会第218回研究例会を、下記の通り開催いたします。

研究例会のご参加は事前申し込みが必要です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン開催となります。

ご参加の方は事前にURL等をお送り致しますので、下記の申込先に1月12日(水)までにお申し込み下さい。

研究例会参加費：会員 無料、非会員 8,000円

記

日 時 令和4年1月17日（月） 13:30～16:50

場 所 オンライン開催

主 催 センシング技術応用研究会

連絡先・申込先 センシング技術応用研究会 事務局

TEL:0725-51-2534 FAX:0725-51-2597

E-mail:sstj@dantai.tri-osaka.jp

※参加者名、所属、電話番号、メールアドレス（web招待メールの送信先アドレス）をご記入の上、1月12日(水)までにお申し込み下さい。

— 講 演 —

(13:30～14:30)

「誰もが自在に活躍できるアバター共生社会の実現に向けてサイバネティックアバター基盤」

ATRインタラクション科学研究所 所長 宮下 敬宏 氏

サイバー空間とフィジカル空間の両方で活動できる遠隔操作型のロボットあるいはCGエージェントをサイバネティックアバター（CA）と呼びます。CAを介して、働く・暮らすなどの社会参加ができるようになれば、高齢者や障がい者を含む誰もが自在に活躍できる社会が期待できます。本講演では、CA関連技術の研究開発と、アバター共生社会について紹介します。

— 休 憩 —

(14:30～14:40)

— 講 演 —

(14:40～15:40)

「ヒトを模して、ヒトに迫る、MEMS触覚センサについて」

立命館大学 情報理工学部 実世界情報コース

メディアエキスペリエンスデザイン研究室 教授 野間 春生 氏

映像や音響に比べて、触覚は現状でまだヒトのレベルで機能する触覚センサが成熟していない。本講演でその難しさと現状のまとめ、そして演者の研究事例を紹介します。

— 休 憩 —

(15:40～15:50)

— 講 演 —

(15:50～16:50)

「アバターロボットとデジタル空間との融合の未来」

iPresence合同会社 代表社員 クリストファーズ クリス 氏

コロナ中で世界中の人々が移動を制限された状態が続いている。その中でも経済を引き続き回すために新たな人と人とのコミュニケーション技術が多く発明されてきている。一つはアバターロボットを介した遠隔コミュニケーション。また、デジタルツインなどのサイバー空間でのコミュニケーション。今回、その2つを組み合わせた未来はどのようになっていくのか過去の実績などを踏まえて講演します。